

米の重力波観測に東大研

「神岡で直接観測を」

宇宙の誕生直後に発生した「重力波」の証拠とされる現象を世界で初めて観測したと、米カリフォルニア工科大などのチームが十七日に発表した。飛騨市神岡町では、東京大宇宙線研究所が重力波観

測のKAGRA(かくら)計画を進行中。研究者らは「間接的な電波観測であり、私たちは初の直接観測を目指す」と、今後の研究スケジュールには影響しないと話した。

計画は国内初の大型

低温重力波望遠鏡を旧神岡鉱山地下に設置。レーザー光で微小なゆがみを検出し、超新星爆発やブラックホールの生成に伴って生まれる重力波の観測を目指す。新しい研究棟に四月から研究者が入り、来

年から試験観測の予定だ。



重力波観測のため新設された研究棟。4月から研究者が使用する。飛騨市神岡町で

今回の発表に研究所

重力波推進室の宮川治助教(四)は「いい意味でも悪い意味でもインパクトがある」と表現し、刺激を受けた様子。推進室の大橋正健准教授(五)も「大発見」と評価する一方で「神岡は直接観測でブラックホールが生まれる瞬間を見るのが目的」と話した。

(島将之)



重力波 物質

質が動いた時に生じる時空のゆがみで光の速さで伝わる。宇宙の成り立ちを解明する手掛かりとされ、一般相対性理論で存在が指摘されたが観測されておらず「アインシュタインからの最後の宿題」と言われる。